

桜の見どころ 案内マップ

今月号で紹介している桜のスポットをマップでお知らせ！
自分の足でゆっくり探してください！



布津運動公園

南島原市最多の1,000本の桜は圧巻。
3月下旬から4月上旬には、夜桜も楽しめる島原半島屈指の花見スポット。多くの花見客が訪れます。



—特集—

桜

SAKURA

いつのまに 散りはてぬらむ 桜花
面影にのみ 色を見せつつ

おもしろいことなつね
—凡河内躬恒—

真っ青な青空に咲き乱れるひまわりが印象的な南島原市。ですが、それだけではありません。桜の名所も多いことをご存知でしょうか。今月は、古来から愛されてきた、「桜」を特集します。

日本の花Ⅱ桜

奈良時代には「花」といえば「梅」を指していました。

平安時代になり、唐風（中国）文化が廃れ、国風文化が盛んになるにつれて、「桜」の人氣が高まります。この頃から「花」といえば、「桜」を指すようになりました。

百人一首に歌われた

ひさかたの
光のどけき春の日に
しづ心なく
花の散るらむ

—紀友則—

「花」とは、「桜」のことです。

『日の光がのどかにさす春の日に（どうして）落ち着いた心もなく桜の花は散り急ぐのであろう』という歌意（歌の意味）ですが、花びらの落下を惜しみ、また、花

一斉に咲き散る美学

一般的に、桜といえばソメイヨシノのこと。世間には、無数に花がありますが、これほど一斉に咲き、散る花はほとんどありません。ではなぜ、これほど一斉に咲き、そして散るのでしょうか。

遺伝子が同じⅡ性質が同じ

それは、ソメイヨシノがもともと「同じ一本の木だから」と考えるとわかりやすいと思います。ソメイヨシノは、ヤマザクラに接ぎ木をしたり、挿し木をして増やします。挿し木、接ぎ木をした植物の遺伝子は同一となります。遺伝子が同じですから、同じ時期に花が咲くのは当然で、驚くほどの性質が似ているのです。

また、実は、ソメイヨシノ同士の間では結実（種子ができること）しにくい上、たとえ種子ができて発芽することはまずありません（「自家不和合性」と言います）。

このことから、自然環境下には、自生しているソメイヨシノは、まずありません。

のはかなさに寄せる感傷は現代の私たちにも受け継がれています。江戸時代には、庶民の間にも「お花見」が定着するほどになり、桜は春の象徴、花の代名詞となりました。

「花は桜木、人は武士」という言葉も生まれたほどです。

和歌に限らず、絵画や演劇、歌謡曲、小説など、桜を題材にした芸術作品は枚挙にいとまがありません。これほど愛される「桜」とは一体どんなものなのでしょう。



一本の桜から増える一方で、自然では決して増えることがないソメイヨシノ。極論ですが、だから全ての桜が「同じ一本の木」と言えるのです。

ソメイヨシノは

吉野の桜ではない

ソメイヨシノの「ヨシノ」から、奈良県吉野山を連想しがちですが、実はそうではありません。江戸時代、江戸の染井地区の植木職人が交配し、売り出したのが最初とされています。日本各地に「〇〇富士」と名のつく小山は、どれも本家富士山にあやかったもの。ソメイヨシノの「ヨシノ」もまた、桜の名所「吉野山」のブランドにあやかったものなのです。

子孫を残せない

ソメイヨシノ

自然環境下では子孫を残すことができないソメイヨシノですが、これほど美しくなかったら、接ぎ木してまで育てようとは考えなかつたでしょう。

ソメイヨシノは美しさによって人を動かし、そして生き残った珍しい植物と言えるのです。